

市民が安心して生き生き暮らせる市に



渋川市長
高木 勉

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。昨年は、コロナ禍で新たな活力を生み出す移住・定住の促進を積極的に行ってまいりました。昨年後半からは、転入超過傾向が続き、明るい兆しがみられます。

未だに新型コロナウイルスの収束が見通せない状況にありますが、コロナ禍を乗り越え、地域コミュニティの活性化、高齢者などの交通弱者の支援としてデマンドバスの導入、決済額の1割を子ども夢基金に積み立てる電子地域通貨「渋Pay」などを通じて、元気で活力のあるまちづくりを進めてまいります。今年4月には、G7サミット(主要国首脳会

議)に伴うデジタル・技術大臣会合が、高崎市のGメッセ群馬で開催され、その宿泊地として伊香保温泉が予定されています。これを契機に、温泉文化とともに、本市の魅力が全世界に向けて発信できることを大いに期待しております。

本市は、「共生社会実現のまち」を目指して取り組むなかで、「渋川市犯罪被害者支援条例」の4月1日施行に向けて準備を進めています。共生社会の理念に基づいて、全ての市民が安心して暮らすことができ、生き生きとした人生を送ることができるよう全力で取り組んでまいります。結びに、皆さまのご多幸を祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

市政のチエツクに務めます



渋川市議会議長
望月 昭治

明けましておめでとうございます。年頭に当たり、市民の皆さまに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆さまには、日ごろから市議会に対する温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年の2月から続くウクライナ紛争の影響もあり、世界的な燃料費の高騰は、コロナ禍の傷が癒え始めた日本国内においても、不安定な物価高を招いており、先の見通せない不安から日常生活においても閉塞感がありました。一方、サッカーワールドカップで、日本代表がドイツ代表とスペイン代表に勝利し、決勝トーナメントに進出するなど、日本中が

歓喜する出来事もございました。

本市においては、本年2月に市議会議員選挙が予定されており、新しい顔ぶれによる3月定例会では、新年度予算のチエツクを通じて、いかに効果的に市民の幸福度の向上につながる事業に取り組めるか、改めて市政のチエツク機関として、議会が果たす役割と責任を自覚し、市民の皆さまの生活を守るため、全力で取り組む所存であります。

本年も市議会に對しまして、相変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、この一年が皆さまにとって輝かしい年となりますようご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



今年の干支は「卯」

今年の干支は「卯」です。「卯」は動物に当てはめると「ウサギ」になります。「卯」の字は、門を押し開けて中に入る様子を表した字です。「漢書」では、草木が茂り地面を覆うようになった状態を表しているとして解釈されます。また、相場格言では「卯は跳ねる」といわれ、上昇相場になるとされています。子年にまいた種の芽が丑年に種の中で育ち、寅年に春が来て芽吹きを迎え、ついに大きく成長していくのが卯年です。もともと動物とは関係が

なかった十二支ですが、民衆が暦を覚えやすいように身近な動物を当てはめたという説があります。そのため、十二支は各地域でアレンジされ、その地域の人にとって身近な動物が登場しています。例えば、日本では十二支の4番目に「ウサギ」が割り当てられていますが、チベットやタイ、ベトナムなどの一部の地域では「ネコ」が割り当てられているそうです。そうした国では、日本で年賀状などに十二支の「ウサギ」が描かれるのと同じように、ネコのグッズが縁起物として飾られています。

先の見通せない時代ですが、ウサギのようにびよんと飛び跳ねられる飛躍の年になることを願います。

